



宮私幼PTAだより

第101号

発行 宮私幼PTA連合会
編集 佐々木幸士
広報 佐々木幸士

事務局
仙台市青葉区国分町三丁目6-12
第二ビル6F
電話 (022)263-7040 番

ウィズコロナでのPTA活動



宮城県私立幼稚園PTA連合会
会長 佐々木 幸士

新型コロナウイルスの影響により、多くの社会活動に支障を来している中、最近では「ウィズコロナ」としてコロナ以前に戻る場面も多く見られるようになって参りました。

県内各園の幼稚園においても、この一年間は遠足や運動会、お遊戯会などの幼稚園行事が行われるなど、明るい兆しが見え始めております。

幼稚園での学びの時間はあつという間に過ぎていきます。行事への参加は、子どもたちにとって貴重な経験であるだけでなく、親にとっても、家庭とは違う環境の中で子どもの成長を感じられる貴重な時間でありま

す。一日も早くコロナが収束し、子どもたちがマスクや制限のない自由な環境の中で元気に伸び伸びと遊び、心から行事を楽しめる日常が戻ってくるよう願って止みません。

出となるはずですが、

もちろん、子育てでは感動ばかりではありません。時には悩んだり、不安を感じたりすることもあります。しかしながら、それは親として子育てに強い関心があるからであり、良い親の証でもあります。親も子どもも百人百様、昔から子育てに正解などはありません。親として本気で悩むからこそ子どもの成長を感じた時の感動もひとしおなのではないでしょうか。

保護者の皆さまは、仕事と家庭の両立で忙しい毎日をお過ごしのことと思いますが、親は子どもの育つ姿を見て明日への希望をもらい、子どもの成長とともに、社会的に、人間的に成長するものであると私は思います。これまでも、これからも、子どもと共に感動し、時に悩みながら互いに成長していきたいと思えます。

さて、県内各地の幼稚園において、少しずつPTA活動が再開されつつあります。子どもたちは、園の行事やPTA活動を通じて、お友達のお父さんやお母さんに会ったり、

時には遊んでもらったりする経験を重ねていくうちに、家族以外の大人に対しても親しみを持ち、大人を親身な存在と感じるようになります。子どもが幼少期に、家族以外で親身になってくれる大人の存在を体感している、実に小・中学校での「いじめ」が減るのだそうです。

親身とは、まさに「親の身」と書きます。大人も、幼い頃を知っている子どもに対しては不思議と親身になれるものです。コロナ禍ではありませんが、PTA活動を通じてママ友などを周りに増やし、大人は子どもの最大の味方であるという「親身」、「愛情」、「思いやり」の姿勢をたくさんの子どもたちに伝えていきたいと思えます。

さて、この宮私幼PTAだよりが発行される三月は、子どもたちが卒園や進級を間近に控えている時期かと思えます。保護者の皆さまにおかれましては、お子様のご卒園、ご進級、誠におめでとうございます。年長児の保護者の皆さまは、卒園するお子様の成長した姿に喜びを感じる一方で、小学校生活への期待と不安も交錯していることでしょうか。また、年中・年少児の保護者の皆さまは、お子様の言葉や行動に表れる一年の変化に目覚ましい成長を実感し、喜びを感じていることと思えます。

そして何より、各幼稚園の教職員の皆さまにおかれましては、コロナ禍で様々な規制がある中、このように子どもたちを健やかに成長させていただきましたことに、心より感謝申し上げます。

皆さま、この一年間PTA活動に温かいご支援とご協力を賜り、誠にありがとうございました。

加報告

第三十六回全日本私立幼稚園PTA連合会全国大会

宮私幼PTA連合会常任委員
エコーノワール幼稚園園長

佐々木 拓真

十二月九日(金)に東京で開催された全日本私立幼稚園PTA連合会全国大会に、宮私幼PTA連合会を代表して参加してまいりました。コロナ禍の影響で一昨年は中止、昨年はリモート開催となった本大会ですが、規模は縮小されたものの、三年ぶりに全国から参加者が集まった開催となりました。

「子どもがまんなか〜良質な幼児教育をすべての子どもに〜」をテーマとして開催された大会の第一部では、永岡桂子文科大臣をはじめ多数の来賓の皆様の隣席のもと、「私たちが、次代を担う子どもたちの心豊かな人間としての成長や幸福を願い、常に子どもがまんなかの視点から、家庭教育の向上、すべての子どもが良質な幼児教育を受けることができる社会を目指して、子どもたちがはじめて出会う学校である私立幼稚園・認定こども園とともに努力することを宣言します。(以下略)」という大会宣言が採択されました。

第二部では、大阪総合保育大学



学長の大方美香氏に「子育て、あい・う・え・お〜未来に向かう力とは〜」と題した講演をいただきました。講演では、近年の幼児教育の研究の中で認識されてきた、乳幼児期の保育の中で「非認知能力」を身につけることの大切さについて取り上げられました。自己肯定感、自立心といった「自己」にかかわる力、思いやり、協調性、規範意識といった「社会性」にかかわる力、そして美しさや未知なるものに感激、驚嘆する「感性」といった非認知能力を幼児期にしっかりと身につけることが、小学校以降の学習やその後の社会生活を円滑に進めるうえで重要になるそうです。幼児教育に携わる者として、担っている役割の重さを再認識させていただきました。

大会の最後に全日本私立幼稚園連合会の田中雅道会長から、刑事事件となった横領事件についての経過報告と、今後の連合会の改革に向けての決意表明がありました。事件の温床となった会運営の問題点にしっかりと向き合い、再発防止に正面から取り組む姿勢を示していただきました。今後の連合会の改革に期待をしたいと思います。

残念ながら、今年度の宮城県からの参加は一人となってしまいました。が、来年の大会の時期には安心して多く人数で参加できる状況になっていることを願っております。

宮私幼教育振興大会・宮私幼PTA研修大会に参加して

宮私幼PTA研修部副部長
聖ドミニコ学院北仙台幼稚園(P)

牛込 和香奈



令和四年十月二十日、第四十九回宮城県私立幼稚園・認定こども園教育振興大会及び

宮私幼PTA研修大会が開催されました。好天に恵まれ、来賓の方々、沢山のPTAの皆様にご参加いただきました。



第一部の振興大会は、「次代(あす)を担う子どものために」を大会スローガンに掲げて行われました。「次代を担う子どもたちが心豊かな人間として成長することを願い、子どもたちにとつての最善の利益を実現するため、家庭教育の向上、幼児教育の振興を図ることを目的として、子どもたちがはじめて出会う学校である私立幼稚園・認定こども園と手を携へ常に努力する」と大会宣言が読みあげられました。また、来賓の方々にご挨拶・ご祝辞をいただき、新型コロナウイルス感染症により制限のある中でも、子どもたちが安心して園生活が送れるよう、補助金等ご支援いただいております。また、お聞きしました。日々、子どもたちのために活動いただいております。



皆様に、保護者の一人として感謝の気持ちを新たにいたしました。第二部の研修大会は、福島大学名誉教授・仙台

大学体育学部元教授でいらっしゃる大宮勇雄先生を講師にお招きし、「子どもの育ち」について考える」という題でご講演いただきました。

三つのテーマに分けてお話し下さいました。最初のテーマは「どんな子どもに育てたいのか」。子どもは親の思い通りには育たないものですが、子どもがどんな人になるか、親が考えたとき、「周囲から信頼される人」であってほしいと、親は願うものです。信頼される人というのは、周囲のことをわかってくれる人・話を聞くことができ、知識を吸収し、周りの力を借りることができる人、すなわち、「学ぶ力」がある人だと、ご説明いただきました。

二つ目のテーマは「学ぶ力とは」。テストの点数で力を測られてしまうことが多い社会ですが、テストの結果で学ぶ力を測ることはできません。先生のお話によると、学ぶ上で難しいのは「続けていくこと」であり、壁にぶつかったときに、

それを乗り越えていく力、そして「学ぶ意欲」が大切であるということとです。学ぶ意欲については、『マインド・セット』の著者であるキャロル・ドゥエック氏の研究の例を挙げて詳しくご説明くださいました。ある研究では、四歳児ですでに、結果志向(できる子だと評価されたい・始めから失敗を避ける傾向がある)と学び志向(結果だけでなく評価を考えない・失敗したことをどうしたらよいか考える)の子どもに分かれたそうです。大人が結果だけをみて子どもを評価するのは、

では、難しく、挑戦していることを評価することが大切ではないか、



評価すること、

とのお話でした。子どもたちが好きな事に取り組んでいる様子を見守り、親も一緒に取り組んでみることも、難しいことに挑戦し続ける力を育てることにつながるとお聞きし、普段の子どもの様子との時間の過ごし方を振り返るきっかけをいただきました。

最後に、幼児期に大切なこととして、「好きな事に熱中できること」「友達と関わりあうこと」「自分から難しいことに挑戦すること」をあげて、大人の関わり方についてご説明いただきました。大人たちが、子どものいいところを見つけ、認め励ますことで、元々子どもに備わっている「学ぶ意欲」が伸

びていくということを、さかなクンの自伝のエピソードを交えながら、お話しいただきました。今回の大宮先生のご講演で、子どもとの接し方にたくさんのご気づきを得ることが出来ました。自身も子どものいいところを見つけ、子どもを信頼して見守りながら、学ぶ意欲をのばしていきたいと思っております。

宮城県知事・県議会議長への要望活動について

宮私幼PTA副会長

渡辺 勝幸



令和五年一月三十日、宮城県庁を訪問、村井嘉浩宮城県知事に對し、宮私幼の皆様とPTAで要望活動を実施しました。当日の参加者は宮私幼PTAから、佐々木幸士会長・横澤副会長・渡辺監事・小山広報部長・鈴木広報副部長・菅原、佐々木の二名の常任委員と副会長の渡辺勝幸でした。さらに宮私幼連合会の鎌田理事長、庄司副理事長ほか三名の合計十三名が出席し、要望書を提出しました。

要望書の内容は、令和五年度における「特別支援教育への支援」「教員の人材育成確保への支援」「教員等の処遇改善」「エネルギー高騰対策」「通園バス置き去り防止策への公費負担」 「新型コロナウイルス感染症対策に関する支援継続」「私立学校運営費補助金への継続支援」でした。村井知事からは、国の少子化対策に、県として取り組むだけでなく全国知事会としても要望していきたいとの回答をいただき、最後に参加者で記念撮影をしました。知事要望の後、県議会の菊地恵一議長を訪問し、同様の要望書を提出。菊地議長からは、自ら大崎市の幼稚園で評議員を務めていることもあり、現状はよく理解しております、宮私幼PTA役員、県議会議員とともに県議会としても積極的に動いていきたいとの答えをいただきました。



会員の声

「ごもまのふれあい」

葦の芽幼稚園(P) 鹿島 亜由美



ごもまたちにとつて、園での集団生活はたくさんさんの学びを得ることができる場所です。

遊びを通し社会性を養い、行事を通し規律を身につけるなど、ごもまたちは楽しみながら、日々成長していきます。私たち保護者は、子どもが成長していくにつれ、喜びを感じつつも、少しずつごもまごもまあう時間が少なくなっていく中で、時に寂しく感じることもあります。

葦の芽幼稚園では、毎年夏祭りに、ごもまたちと一緒に「はまらいんや」を踊ります。

気仙沼ならではの地域性を感じるとともに、この数分間は、保護者にとつてもごもまたちにとつても、みんなを笑顔にしてくれる時間です。一緒に手を取り合うこと、歌って踊ること、ほんのちよつとの時間でもお互いの愛情を確認できるのです。毎日の家庭生活の中で、できそうでできないふれあ



の時間を、こうした行事を通して得ることができるのも、園生活のお陰であると改めて感じます。この先、どんどん少なくなっていくであろうごもまごもまの時間を、大切に過ごしていきたいと思っています。

千手寺幼稚園「ごもまごもまごもま」

千手寺幼稚園(P) 太田 敬一



千手寺幼稚園では毎年、年間を通して様々な行事が行われています。その中でも

毎年秋に行われるごもまごもまごもま幼稚園生活の中でも一大イベントであり、今年度は第五十一回を迎えた歴史ある学芸会行事です。

ごもまごもまごもまは市民会館を貸し切り、広いステージで様々な演目を披露してくれました。歌や合奏やダンス、さらには年長になると劇も加わり、見ている子どもたちの成長を深く感じられずにはいられません。長らくコロナ渦の中、マスク姿で練習に励む子供たちは、本当によく頑張ってくれていました。中には感染された子どももいる中、開催することも危ぶまれており、先生方をはじめ不安でいっぱいだったと思います。実際今年度は規模の縮小や中止を余儀なくされた行事もありました。このような環境下でも無事にごもまごもまごもまの日を迎えることができました。

一昨年、昨年は感染拡大を考慮し、実施日を分散させる方式や、演目も男女別にした方法での開催でした。今年度は全園児による園



歌を省略したり、年少年中組の演目を最初に行い順次降園させる方法をとったりと、例年通りにはいきませんが、三年ぶりに一同を

会して行うことができました。久しぶりにお手伝いに参加させていただいた私を含め、皆様がとても喜ばしく思われたことでしょうか。元気に歌い、楽しく踊る子どもたちは本当に感動を与えてくれました。

子どもたちにとつてはコロナ渦という環境が当たり前になりつつあると思われませんが、我々大人は違います。だからこそなんとか従来のように頑張つて欲しい、楽しんでほしいと応援することができました。

また先生方の日々の徹底された感染管理のもと、子どもたちも頑張ることができ感謝の気持ちでいっぱいです。今後においてもコロナのような壁に負けず、これまでに以上に幼稚園生活が充実していくことを願っています。

笑顔咲く万華鏡づくり

岩沼とばと幼稚園(P) 大木 由香



「何か子どもたちにも喜んでもらえるものがないな」の一言から始まった父母ふれあい

イベントの話し合い。「ものづくりが好きな人も苦手な人も楽しく参加できたらいいな」

以前は家の中に当たり前にあったものも無くなり、伝統的な日本のおもちゃに触れ合う機会がないのは寂しいと感じてきました。

「万華鏡ならきつと女の子も、男の子も喜んでくれそう!」「せっかく作るなら、思い出になるオリジナルの万華鏡がいいよね!」、子どもが着ていた



もが着ていた思い入れのある服やお気に入りの布を再利用して世界で一つの万華鏡を作ることにしました。

コロナ禍ということもあり、普段会えない保護者同士の交流はどのように行えばいいのかとても悩みましたが、同じ目的を持ち、共に行動することで自然と交流は生まれるものだ気がしました。ふれあいイベント開催当日も、終始和やかな雰囲気、マスクの奥にみなさんの笑顔が見えた気がしました。

今後みんな子どもたちの成長を見守りながら、園での生活を支えていきたいと思っています。

「秋祭り・運動会」

大河原カトリック幼稚園(P) 氏家 佳子



夏休み明け行われた「秋祭り」。昨年はコロナ禍ということもあり、役員のお

手伝いはなく残念でしたが、今年度は念願の子どもたちとお祭りに参加できることに心躍る思いでした。暑さの残る中、ホールでは好きなキャラクターのパネルにお手玉をぶつけて楽しむ子どもたちや、スーパーボールすくい、お菓子釣りなど仲良しの友だちと手を繋いでお店を回り、とても楽しい時間となりました。お店の手伝いをした私たち役員も、もう少し続けていたいと思う程でした。

そして一〇月の「運動会」は園庭で行われ、マスクを外して子どもたちや先生の最高の笑顔を見ることができました。入園時からコロナ禍で素顔が見られなかった子どもたちの最高の表情を見ながらの演技の応援は本当に嬉しかったです。

終了後、先生から一人ひとりにメダルを掛けていただいたのですが、子どもたちが、先生とどれだけ頑張ってきたかが伝わり、とても心が熱くなりました。

いつも本当に親身になって寄り添ってくださる先生方のお陰で、私自身も役員を通じて子どもと共に成長できた日々でした。また、役員のみならずみなさまと共に微力ながらお手伝いできたことをとてもうれしく思います。



第四十五回親善バレーボール大会報告

三年ぶりの大会開催に感謝の声



PTA連合会副会長 横澤 行夫
お人形社第二幼稚園(T)



去る十月十八日、利府町にある宮城県総合運動場グランディ21セキスイスターアリーナに於いて第四十五回宮私幼PTA連合会親善バレーボール大会が、三年振りに開催されました。

コロナ禍で二年間中止された大会が主催関係者や、幼稚園のお母さま方の熱心な要望により、開催できることになったのです。今回の参加チームは、四十チーム。AとEコートの五コート八チームずつに分かれて、九月九日に開催された代表者会で組合せの抽選が行われ大会の開催となったのです。審判は、宮城県レディース家庭バレーボール連盟の皆さん二十八名で担当していただきました。

開会式は大会副委員長の渡辺智宏先生(汐見台幼稚園長)の進行により始まり、挨拶で佐々木幸士会長は、「正面入口に多くの選手の皆さんが並んでいる姿を見て、目頭が熱くなりました。ウィズコロナ、アフターコロナのもと、会長としてようやく皆さんの思いに応えられて、ほっとしております」と話されました。選手宣誓は、袋原幼稚園のバレー部代表三人により、「大会開催に感謝する」



など、感動的な宣誓となりました。十時から各コート試合が始まり、試合開始のホイッスル。サーブ・レシーブなどボールを打つ音が、アリーナに響き渡り、熱戦が続きました。今年は、各コート第四試合が終わった後、昼食休憩の時間を取りました。午後試合が再開されました。ウィズコロナで、マスクをしながらの応援で、大声が出せないのが、手拍子での応援で、選手も試合中もマスクをしながらの人も多くみられました。試合はリンク制で各園2試合対戦し、その結果、決勝へ進むチー



ムが決まり、各コートで、決勝戦が行われ、最後の試合が終わったのは、午後四時でした。直ちに閉会式が大会委員長の岩山伸次さん(東盛幼P)の進行で行われ、優勝・準優勝園へ、渡辺勝幸副会長より賞状とロフィーが贈呈されました。審判団を代表し、宮城県レディース家庭バレーボール連盟の佐藤園子理事長よりて講評をいただき、「三年振りの大会を喜び、楽しんでいただけようと思います。最後まであきらめずにボールを追いかける姿勢が大切です」と話されました。最後に、渡辺勝幸副会長の音頭で万歳三唱をして、締めくくりました。

E	D	C	B	A	コート
多賀城高崎	七郷	第二向阳台	わかくさ	さいわい	優勝
めるへんの森	こどもの国	汐見台	向山こども園	愛子	準優勝

●●●●●●●●
第四十五回親善バレーボール大会入賞チーム



の声が多くあり、感動的な大会となりました。「健康で明るいお母さんの存在が子どもたちの健やかな成長に最も大切である」と言われるように、明るい家庭が基本です。家事や子育てをしながら練習は、いろいろな苦勞もあつたと思います。これまで支えてくれた多くの方々へ感謝の気持ちを忘れずに、今後もバレーボールを楽しんで下さい。

令和五年度 行事予定

▼宮私幼PTA総会
期日 令和五年六月五日(月)
会場 トークネットホール仙台(仙台市民会館) 小ホール

▼宮私幼PTA親善バレーボール大会
期日 令和五年十月十七日(火)
会場 セキスイハイムスターアリーナ(利府町・グランディ21)

▼宮私幼教育振興大会並びにPTA研修大会
期日 令和五年十二月一日(金)
会場 東京エレクトロンホール宮城(宮城県民会館) 大ホール

令和四年度 編集委員

- 副会長 渡辺 勝幸(六郷P)
- 副会長 横澤 行夫(お人形社第二T)
- 広報部長 小山佳予子(認南 光T)
- 広報副部長 鈴木小百合(認南 光T)
- 広報部員 佐々木拓真(三ツル丸T)
- 広報部員 片岡 大助(認さくらT)
- 広報部員 阿部 幸恵(袋原T)
- 広報部員 二階堂和香奈(認さくらT)
- 広報部員 鈴木 静香(袋原T)

